学校法人湘南ふれあい学園 2020年度 事業計画

目次

I	学校法人の概要	P. 1
II	学校法人湘南ふれあい学園の教育指針	P. 5
III	学校法人中長期計画	P. 7
IV	2020年度事業計画の概要	P. 8
V	各学校の事業計画の概要	P. 12
VI	財政計画	P. 25
VII	施設・設備計画	P. 27
VIII	生涯学習事業及び受託事業計画	P. 28
IX	収益事業	P. 28
X	監査計画	P. 28

I 学校法人の概要

学校法人湘南ふれあい学園は「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」を理念とし、高度な専門知識と技術を修得する意欲を主体的に持ち、人と協働しながら、社会に奉仕でき、次世代のリーダーとなる保健医療人・社会人を育成することを目的とし、湘南医療大学、茅ヶ崎看護専門学校、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校、下田看護専門学校、医療ビジネス観光福祉専門学校、そして、幼保連携型認定こども園みどり幼稚園の各学校・園を運営しております。

本学園の各校各部門が教育理念に基づき、具体的な教育方針に則り、教職員等の人事計画、財政計画、組織運営計画等を事業計画に基づいて実施する所存です。

理念

『人を尊び、命を尊び、個を敬愛す』

その考えのもとに保健・医療・福祉・教育を担当しそして、社会へ奉仕する事をめざすものです。わたしたちは、すべての人々のしあわせに、今、役立ちたいと願っています。

1 やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践

2 生命^{いのち}を全うしていただくための知識・技術の習得

3 その人らしさと個別性を尊重し敬愛す

わたしたちは、理念の実践者になります。

教職員の行動基準

1 使命

ふれあいグループの理念を基本として、地域の人々の幸せに役立つ保健・医療・福祉・教育を保障するために、専門職的で倫理的な医療と教育を行なうべく最大限の努力を尽くす。

2 地域社会への貢献

ふれあいグループの医療と教育機能を地域の医療・教育体系に連携し、効率的な地域サービスの成果を挙げることに努める。

3 研修と教育

教育者としての研修に励み、ふれあいグループとして提供できる医療教育水準の向上と後進の教育に努める。

4 記録と守秘義務

記録を完備し確実に管理するとともに、職務上知り得た個人の秘密は厳守する。

5 管理運営

学生中心の教育の心構えを堅持し、ふれあいグループが地域社会に必須の医療並びに教育施設として存続できるよう、公正で合理的な管理運営に努める。

事業基本方針

- 1 私たちは、PDC 活動により学校経営に全職員が参画し、さらなる発展を目指します。
- 2 私たちは、学生・園児に最適な教育サービスをタイムリーに提供します。
- 3 私たちはやさしさ、思いやりと気配りのある態度で仕事をします。

全教職員参加

- 1 PDC 活動の推進（部門・個人 PDC の精度向上）
- 2 安全管理体制の強化（委員会活動の活性、規程類の再点検）
- 3 FD・SD 活動、ふれあい研修活動の推進（授業内容、職務内容の改善による教育水準の向上）
- 4 業務改善運動の推進及び6 S 活動の実践
（業務遂行の効率アップによる時間外削減及び時間の有効活用、整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・作法の取り組み強化）

法人の概要

- 1 設置する学校（学校名・学部・学科・専攻等・開設年度）

学校名	学部学科専攻等		開設年度
湘南医療大学	保健医療学部	看護学科	2015 年
		リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	
	大学院 保健医療学研究科		2019 年
幼保連携型認定こども園 みどり幼稚園	1 歳児、2 歳児、3 歳児（年少）、4 歳児（年中） 5 歳児（年長）		1949 年 <small>※2017 年より幼保連携型認定こども園</small>
茅ヶ崎看護専門学校	看護学科		1994 年
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	理学療法学科		1998 年
	作業療法学科		
	言語聴覚学科		
	社会福祉専攻科		
湘南医療大学附属 下田看護専門学校	看護学科		2004 年 <small>※2020 年4月より 校名変更</small>
医療ビジネス観光福祉専門学校	医療ビジネス学科		2014 年
	観光学科		
	介護福祉学科		2019 年
	介護福祉士実務者研修		

2 学生・園児数・・・学校別

(学部・学科等、入学定員、収容定員、入学者、在籍者、2019年度卒業生数)

[湘南医療大学]

学部・学科・専攻等		入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数 2020.4.1				2019年度 卒業生数	
					1年	2年	3年	4年		
保健 医療 学部	看護学科	80(10)*	340	80	80	84	84	97	78	
	リハビリテーション 学科	理学療法専攻	40	160	40	40	44	43	45	38
		作業療法専攻	40	160	40	40	39	42	41	34
大学院	保健医療学研究科	12	24	8	8	11			—	
合計		182	684	168	168	178	169	183	150	

*3年次編入学定員

[幼保連携型認定こども園みどり幼稚園]

認定区分	入学定員	収容定員	在園者数 2020.4.1					2019年度 卒園生数
			1歳児	2歳児	年少 (3歳児)	年中 (4歳児)	年長 (5歳児)	
1～3号認定	—	218	7	9	65	58	59	59
合計	—	218	7	9	65	58	59	59

[茅ヶ崎看護専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数 2020.4.1			2019年度 卒業生数
				1年	2年	3年	
看護学科	80	240	80	80	74	75	69
合計	80	240	80	80	74	75	69

[茅ヶ崎リハビリテーション専門学校]

学科・専攻科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数 2020.4.1				2019年度 卒業生数 (修了)
				1年	2年	3年	4年	
理学療法学科	70	280	70	70	74	60	67	55
作業療法学科	30	120	30	30	21	19	22	22
言語聴覚学科	35	70	32	32	37			26
社会福祉専攻科	80	160	45	45	52			56
合計	215	630	177	177	184	79	89	159

[湘南医療大学附属下田看護専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数 2020.4.1			2019年度 卒業生数
				1年	2年	3年	
看護学科	40	120	40	40	40	45	37
合計	40	120	40	40	40	45	37

[医療ビジネス観光福祉専門学校]

学科・研修名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数 2020.4.1		2019年度 卒業生数
				1年	2年	
医療ビジネス学科	40	80	14	14	22	14
観光学科	40	80	76	76	67	56
介護福祉学科	35	70	30	30	15	/
介護福祉士実務者研修	30	30	5	12+5		
合計	145	230	125	137	104	70

※1 2020年度介護福祉士実務者研修は2月1日開講の2月生＋4月1日開講の4月生。

II 学校法人湘南ふれあい学園の教育指針：

1 教育力を高める活動

I 学園各校は、教育力を高め、学生の学習力や学力の質保証を達成させると同時に、学力の到達度の確認・点検を行うための活動として、FD活動を実践しています。FD活動を充実させるために、教員は、学生の学習力を引き出し、やる気を目覚めさせ、卒業目標(ディプロマ・ポリシー)にかなう最高の人材養成教育を行うと同時に国家試験に合格する教育を実践します。

II 教員は、担当授業科目においてカリキュラムポリシーに沿った水準を超える学力を達成するために情熱をもって教育し、学生が理解できるように教え方を工夫します。また、学生の毎日の勉強の習慣づくりを指導します。

2 教員の資質を高める活動

1) 中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(平成24年8月28日)(抄)「2. これからの教員に求められる資質能力」において、教員は、不断に最新の専門的知識と指導技術等を身に付けていくことが重要となっており、「学びの精神」がこれまで以上に強く求められていることが以下に示されています。本学園も、その答申の趣旨に沿って、教員の資質を高める活動を実践します。

I 教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力(使命感や責任感、教育的愛情)

II 専門職としての高度な知識・技能

- ・ 教科や教職に関する高度な専門的知識(グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む)
- ・ 新たな学びを展開できる実践的指導力(基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力)
- ・ 教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力

III 総合的な人間力(豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力)

- 2) 21世紀の大学像と今後の改革方策について・競争的環境の中で個性が輝く大学(答申要旨 平成10年10月26日大学審議会)における教育方法等の改善の中、「授業の設計と教員の教育責任」を実践します。特に、本学園の教員は教室や実習室における授業だけでなく、授業の前提として読んでおく文献を指示する等学生が事前に行う準備学習・復習についても指示を与え、実際の現場で躓かないように実習前には学内でのシミュレーション実技を繰り返し指導するなど授業設計や学習指導内容を策定します。

3 学生の人間性を高める活動

- 1) 理念「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の実践できる学生を教育します。
- 2) 本学園は、人間性を高める教育活動として、湘南医療大学であれば、「総合教育科目」の科目群、看護・医療系専門学校であれば「科学的思考の基礎と人間と生活、社会の理解」の科目群において、人間形成のために必須な科目を学修し、心の成長につなげます。各校では、文学、倫理学など初年次教育にこれらの科目を履修することにより涵養され、医療従事者として必要な資質の形成を目指します。
- また、学生の積極性と社会性を涵養する教育の一貫として、学園全体で行うクリスマスキャロリングは、病院施設に出向き患者様に安らぎを与えるボランティア活動で、人間形成に大いに役立っています。社会に貢献し、人との繋がりを感じ、知見を広げることが将来の医療活動に大きな意義をもたらす活動として継続していきます。
- 3) 本学園は、ふれあいグループ病院施設と連携して、公開講座、保健医療福祉に関わる学園広報活動及びイベントを実施します。今後も、地域連携活動に参加し、地域の方々を支援する活動を通して社会貢献を行い、協力精神を学びます。

4 学生の将来につながる指導力の発揮

教員は、医療従事者を目指す学生に、授業での教育の効果を指すだけでなく、どのような過程を踏んでその学生が学問的に、人間的に、成長していくかを考えて、勉強や生活に関するアドバイザーとして、学生の成長に貢献します。

Ⅲ 学校法人中長期計画：

私学を取り巻く環境は、一段の少子化により、厳しさを増している。湘南ふれあい学園各校(園)では、今後においても地域に必要とされる学校(園)であり続けるため、2019年度を初年度とする事業方針を策定し、中長期事業計画立案の指針とした。

第1期事業計画期間：2019年度～2022年度

学園中期事業方針：各学校は、地域社会に対して主体性、多様性及び協働性を有する「学修者」を育成する。

<重点課題>

①将来の医療従事者となるべく高い志を有する入学生の確保

- ・医療人としての適性を有する人材を早期に獲得するために、A0入試、推薦入試を実施する。

②教育及び研究の質向上と地域貢献

- ・FD研修/SD研修を推進する。
- ・研究計画書から、高評価(過年度科研費応募者)の教育研究者に対して、個人研究費の配分を引き上げ、研究支援を行う。
- ・公開講座や医療従事者(社会人)を対象としたスキルアッププログラムを実施し、生涯学習の機会を地域社会に提供する。
- ・地域医療機関との連携強化を図り、本学の有する知的資源を活用して社会のニーズに応える。

③学生の満足度向上と学校(園)の付加価値の向上

- ・チューター制度、ファカルティ・アドバイザー(クラス担任)制度の充実
- ・初年次生を対象とした職員による学生サポーター制度の導入を目指す。
- ・国家試験対策講座の強化
- ・学生相談機能の強化
- ・ボランティアをはじめ、様々な学生の活動への支援
- ・授業以外でも楽しく充実した時間を過ごせるキャンパスの整備

2020年度

ア 湘南医療大学看護実践教育センター 認定看護師管理者部門ファーストレベル開講予定

イ 湘南医療大学看護実践教育センター 特定行為研修申請中予定

ウ 2021年4月湘南医療大学薬学部医療薬学科設置に向けて、準備を進める。

エ 茅ヶ崎看護専門学校、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校の改組(大学学部昇格)計画を継続的に行う。

オ 湘南医療大学大学保健医療学研究科(修士課程)に新領域(医療経営管理学領域)設置を検討する。

カ 湘南医療大学大学院保健医療学研究科(博士課程)設置計画を検討

第2期事業計画期間：2023年度～2027年度

学園中期事業方針：主体性、多様性及び協働性の強化により、各学校の「学修者本位の教育力」を結集し、湘南ふれあい学園としての「総合力」を育む。

第3期事業計画期間：2028年度～2032年度

学園中期事業方針：湘南ふれあい学園として地域社会に対して主体性、多様性及び協働性を示すことができる保健、医療、福祉、教育が連携する「湘南ふれあいブランド」を構築する。

IV 2020 年度事業計画の概要

湘南医療大学では、「地域に根ざした医療大学」を目指すべく、目標達成に向け、以下の重点事業を計画する。

学部学科専攻においては、時代の要請に応える人材養成として、2019年度の看護学科の教育課程の改定に続き、2020年度からリハビリテーション学科の教育課程も新教育課程に移行する。更に、2021年度の薬学部医療薬学科(仮称)の設置に向けて薬学部校舎建設工事が着工する。また、大学院保健医療学研究科は、2年目に入り、引き続き、保健医療に関わる高度専門職業人を養成する教育研究活動を行う。研究支援体制を強化し、科学研究費補助金や外部研究資金等の獲得を促進していくとともに、大学臨床医学研究所並びにグループ臨床現場との共同研究に向けた研究施策を検討する。上記のほかに、「教育」、「研究」、「施設」、「運営」、「広報」の5分類の分野において、以下の主な事業の行動計画を実行する。

- (1) 入学者全員卒業、全員資格試験合格、全員就職・進学
 - (2) ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づいた教育課程並びに開講科目の定期的検証
 - (3) 臨床、臨地実習施設や大学関連病院施設との連携の充実
 - (4) 地域連携による共同研究活動の推進強化
 - (5) 学修並びに学生生活支援の充実による休退学者の減少
 - (6) 中長期計画に沿った取り組みの着実な実行
 - (7) 湘南ふれあいブランドを中心に据えた広報活動と次世代医療を担う低年齢層をターゲットとした職業体験会をふれあいグループ病院施設と連携して実施
 - (8) 医療従事者並びに社会人向けの研修事業の拡大
2. グループ連携教育
- (1) グループ奨学金制度による、優秀な学生の獲得
 - (2) 地域医療に貢献できる人材教育の推進
 - (3) 3つのポリシーを踏まえた点検・評価、履修系統図の作成、ナンバリングの実施、シラバスの改善等、特色ある教育の展開の各項目の実施検討
 - (4) 実践力強化に向けた指導方法の改善
 - (5) 臨床実務家教員による、臨床教育の充実
 - (6) 本校独自の臨床教育の確立を目指した教科指導法の研究推進
 - (7) 専門学校と大学による連携教育の充実
 - ・湘南医療大学附属下田看護専門学校と湘南医療大学の教員交流
 - (8) グループ病院施設と連携を図り、多職種連携に必要とされる知識、技術、課題解決能力を養えるチーム医療教育の実践を図る。
 - (9) 湘南ふれあい学園各校及びふれあいグループとの連携行事・活動の実施
3. アクティブ・ラーニングの活用等特色ある教育
- (1) 少人数グループワークの展開、モチベーション向上のためのゼミ形式などの授業方法の導入
 - (2) 学内無線 LAN やプロジェクター等を積極的に活用した効果的な授業の実践
 - (3) 主体的な学びの推進
 - (4) 情報リテラシー教育の充実
 - (5) 学生1人ひとりにきめ細やかなキャリア支援教育を実現

4. 地域連携推進活動

- (1) 多様な地域貢献活動の円滑かつ計画的な実施と実践の質向上
- (2) 公共団体自治体等と連携し、地域に根ざし、地域と共に歩む活動を推進
- (3) 地域公開講座の実施
 - 1) 大学まつり/専門学校進学
 - 2) 中学校職業体験受入れ
 - 3) 中学生対象大学体験会
 - 4) 地区住民の環境をモデルとした研究または実習

5. 研究推進活動

- (1) 個人研究
個人研究計画書に基づき、研究活動を実施し、2月開催の「医療・教育研究会」で発表する。
- (2) 特別研究費の設定
研究活動の活性化、学内競争原理を高める配分のあり方を見直し、科学研究費申請の為の学内助成、学会発表への旅費等への助成を新規に実施する。
- (3) 公的研究の推進(継続)
研究倫理教育、科研費応募説明会、研究不正防止研修など、競争的研究費の獲得支援を行う。
- (4) 共同研究の推進
研究者とグループ病院施設との共同研究を活発化させて、地域医療に貢献する研究活動を行う。
- (5) ブランディング研究(継続)
大学独自色を打ち出せる特色ある研究を臨床医学研究所と連携を行いつつ、継続的に検討する。

6. 奨学金等による学生生徒等支援

「ふれあい奨学金」により、湘南ふれあい学園に在籍する学生の奨学・修学の奨励等を行い、有為な人材の育成、教育研究の振興の進展を図る。また、魅力と特色ある教育活動の具現化を推進するため、社会的価値向上に貢献できる活躍が期待される活動への奨励を積極的に行う。

7. 学校間連携

湘南医療大学と系列専門学校4校との「大専教員連携」は、相互出張授業、学生サークル活動や部活動連携、連携同窓会組織など、スケールメリットを活かした学校間連携を展開する。大学とみどり幼稚園との「幼大連携」については、実習施設として、また、幼稚園のイベント等のサポートなど、認定こども園と緊密な連携を図る。これらにより、湘南ふれあい学園としての総合力を高める。

8. 設置学校（園）の定員充足率 100%

18歳人口は、2030年までに10万人以上減少し続ける。この厳しい少子化の状況下、本法人は、理念並びに3つのポリシーの実践により、地域から必要とされる魅力的な学校（園）になるための広報活動及び各関係機関（者）との連携活動の推進が不可欠であると考えている。

- (1) 地域ニーズを反映できる質の高い高大連携（高専連携）、出前授業、公開講座等の実施
- (2) ふれあいグループ各病院施設と連携し、学園ブランド力を地域に発信する活動
- (3) 既受験者高校並びに高校教員との信頼関係を強め、教員向けの説明会の充実や細やかな対応の実施
- (4) 受験生が望むタイムリーな学園教育活動及び入試情報の提供
- (5) WEB、スマートフォン、ホームページ等の電子広報活動
- (6) 地域自治体、企業等団体との連携による、研究成果等の社会還元及び社会貢献活動

9. 人事計画及び組織

(1) 人事計画

各校（園）の事業計画を達成するために資質の高い人材を登用し、全教職員が学生全員に寄り添った教育活動に専念できる組織を編成するため、各部署で適正と判断される人員数の配置を進める。

(2) 職員配置

2020年度の各学校別の専任教職員数は以下のとおりとする。尚、大学のみ、教授、准教授、専任講師、助教、助手の内訳を記載する。

	2020年度現員（2020.4.1）		計
	教員	職員	
湘南医療大学	61	17	78
幼保連携型認定こども園みどり幼稚園	30	4	34
茅ヶ崎看護専門学校	21	5	26
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	23	11	34
湘南医療大学附属下田看護専門学校	10	5	15
医療ビジネス観光福祉専門学校	12	6	18
法人本部	2	6	8
計	159	54	213

[湘南医療大学]

*兼担含む

学部	学科・専攻	教授		准教授		講師		助教		助手		計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
保健	看護学科	3	6	0	6	2	4	2	11	0	0	7	27	
医療 学部	リハビリテーション学科	理学療法 学専攻	6	0	1	2	1	0	3	0	0	0	11	2
		作業療法 学専攻	4	0	1	0	2	1	0	1	1	0	8	2
大学院 保健医療学研究科*		13	4	1	4	2	0	1	1	0	0	13	4	
計		13	6	2	8	5	5	5	12	1	0	27	31	

(3) 組織

ア 学園行動規範

本学園の行動規範に従い教職員の自己規律や倫理道徳を徹底する。また、朝礼の五訓を実践し、学生並びに教職員が常に成長していくことができる組織を目標とする。

イ 会議・委員会

運営管理会議、教授会、各校運営会議、各種委員会等の会議を充実させて、経営と教学が連動して「教育の質の向上」を目指す。そして国家試験 100%、休退学者 0 を目標に教育指導体制を整備する。

ウ IR 担当の設置(継続)

学園の外部評価への対応業務を重視した内容、大学の経営活動の改善を重視した内容、学修成果の評価を通して、カリキュラムや教育プログラムの改善・質保証を高める大学の教育活動の改善を重視した内容など、教育・研究・経営全般の様々な情報収集・分析を反映した企画・立案するIR 担当者を設置できる環境を整備する。学生・保護者等学園を支援する方々に、教育活動及び経営情報を提供し、学園の目指す姿を提示し、理解を深めてもらえるよう計画的に実施する。

(4) 人材育成 (全学連携の教育改善活動の推進)

ア 全体研修会 (FD・SD活動)

全体研修会において、事務職員は、SD研修を継続的に実施するとともに、次世代リーダーの育成を図る。また、自己啓発支援を実施し、特にPCスキル、文書作成、財務能力の向上に向けた研修に取り組む。教育職員は、授業力・教育力・指導力等、資質向上に向けた体系的な階層別研修を実施し、個々の教育スキルの向上に取り組めるFD活動を行う。

イ 全学PDC活動

中央教育審議会は「学士課程教育の構築に向けて」の答申において、「学士の水準の維持・向上のため」に、①学位授与の方針(DP)、②教育課程編成・実施の方針(CP)、③入学者受け入れの方針(AP)の三方針を実施する手法として「PDCAサイクルの徹底」を提唱している。本学園は、全校対象で、PDC活動と称し、毎月、①学生募集②教務・学生支援③国家試験対策④6S(清掃、整頓、清掃、清潔、躰、作法)活動⑤業務改善(教育課程、シラバス、学生便覧、教授方法等)の項目について、Plan(計画)・Do(行動)・Check(確認)を実施し、問題点や課題点の対策を行う。

(5)コンプライアンス教育

ア 寄附行為及び各種規程規則に基づいて、理事会、評議員会及び各会議委員会を運営する。

イ 各校毎に理念・目標に照らして教育研究活動の状況を自己点検し、現状を正確に把握・認識した上で、その結果を踏まえ、優れている点や改善を要する点など自己点検評価を行う。

ウ 教職員ハンドブックの配布を通じて、行動指針や行動規範の周知徹底を図る。

エ 学生指導記録やUSBメモリの取扱方法等、学内研修会を通じて教職員に啓発を行う。

オ 個人情報を含む職務上知り得た情報の管理・運用やSNSの適切な利用について徹底した注意喚起を行い一層の職員の規律を高める。

V 各学校の事業計画の概要

1) 湘南医療大学

基本方針

○学部の特徴である3つの教育実践

学部の特徴である次の3つの事柄について見通しを持って取り組んでいく

①高度な専門知識と技術の教育

学位授与の方針、教育課程の編成と一体化し、総合教育科目から専門科目までを学生が体系的に科目を履修できるように配置し、看護師およびリハビリテーションの専門職として実践するにあたり、必要な知識・技術を身に付ける。

②質の高いチーム医療教育

医療チームの成員が互いに協力して、患者を中心とした総合的で良質な医療サービスを提供することが重要となっている。患者・家族とともにより質の高い医療を実現するためには、個々の医療スタッフの専門的知識及び技術の進歩を土台としながら、多職種の協働（チーム医療）を通してこれらを再統合していくことが必要であり、そのために教育課程に「チーム医療論」を設置して、人材の育成を行う。

「チーム医療論」の教育内容は、ふれあいグループ関連施設で実施される褥瘡対策、緩和ケア、在宅医療等、チーム医療の実践例について学び、臨地実習・臨床実習で得た知識と経験を集約する。また、演習形式で模擬形式に必要な医学的ケア・社会資源の活用についてグループで議論する。

③地域医療で活躍できる人材の養成

臨地実習や臨床実習の体験による実践的教育をカリキュラムに反映させ、在宅生活者の多様なニーズに適切に応え、且つ社会の変化を適切に判断し、行動することで地域社会に貢献できる看護師、理学療法士、作業療法士を養成する。

○大学院における教育研究上の目的に沿った人材養成

高度専門職業人の養成並びに地域医療に貢献できる人材を育成する。

①高度専門職業人の養成

保健医療学の3領域（健康増進・予防領域、心身機能回復領域及び助産学領域）を対象とした学問的基盤を熟知し、保健医療に関わる高度専門知識・技術を有する臨床実践者を養成する。

②チーム医療の中心として貢献できる指導者の養成

臨床的学問探求心を培い、地域医療において研究者としての基本的研究手法を修得し、臨床現場（医療施設、保健施設、行政、地域）で高度な医療専門性を生かしチーム医療の中心として貢献できる指導者を養成する。

重点目標

次の19項目を重点に継続的に取り組む。

（1）管理運営

①理念の実践

湘南医療大学の理念「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」は、ふれあいグループ統一の理念である。大学はこの考えの基に社会に貢献し、世の中の全ての人々の幸せに役立つスペシャリストを養成する事を目的としている。この理念は「人間を尊重すること。やさしい思いやりの心で実践すること。」「生命を尊重すること。医療人として命を全うする為の高度な知識と技術の取得に一生涯励み、そして、患者の生活の質 クオリティオブライフの向上を目指す実践者となること。」「個性の尊重、その人らしさを尊重し、個別的に対応すること。自分以外の一人ひとりの個性と能力を尊重する行動を取ることを。」を意味する。教職員はふれあいグループに愛着を持った新しい校風を築くため、全教職員が学生

を交えながら、湘南医療大学の理念の実践者となるように努力する。

②自律的な学生を育てるための取り組み

知識注入型の授業で学生が受け身にならないよう、グループワーク、ディベート、プレゼンテーションなど学生参加型の授業を積極的に取り入れ、学生が学んだ知識を活用することの喜びや充実感を感じられるようサポートしていく。また、教員・学生間のコミュニケーションは学習意欲を高めることから、学生との関わりを大切にするための施策を各委員会が連携協力し実施していく。更に学生と教員のコミュニケーションの充実の一助であるオフィスアワーを充実させていく。また、医療人としての道徳心を持った人材の養成に努めると共に、マナー教育にも力を注いでいく。

③人間を全人的に見ていく力を育てる取り組み

実習は、全人としての人間に目を向けるという力を育む教育体験が行えるように実践する。

④経常費補助金の獲得増

本学の教育の質の向上に繋げるため、2019年度の国の経常費補助金（一般、特別補助）の交付結果を分析検討し、2020年度の交付額の拡充に向けた措置を講ずる。

⑤自己点検・評価の実施

3つのポリシーを踏まえた適切性にかかる点検・評価のサイクルを確立するとともに、外部の意見も取り入れた自己点検・評価を実施する。また、自己点検・評価の実施においては、「日本高等教育評価機構」の認証評価項目等を参考に、2019年度の活動状況をまとめると共に、2021年度を受審に向けて、インスティテューショナル・リサーチ（IR）活動を通じ本学の強みとなる情報について収集分析する。

（2）教育・研究等

⑥学生の学修時間や学修成果の把握による教育活動の見直し

学生の学修時間、学修行動並びに学修成果の把握を行い、学生へフィードバックするとともに、今後の授業等の教育活動への見直しに資する。

⑦授業評価等の結果を生かした授業改善、教育活動改善への活用

授業終了時に「学生による授業評価」を行い、学生の理解状況を教員が次の授業に活かせるようなりフレクションペーパーを作成するとともに、評価の低い授業科目については、担当教員から改善計画書を提出させ、見直しを図る。また、卒業時や卒業後のアンケート調査を実施し、学生の課程全体に通じた成長実感や今後の課題等を把握し、教育活動の改善に反映させる。

⑧カリキュラム評価

設置時のカリキュラムで学んだ学生は到達目標でもあるディプロマポリシーに掲げた能力が身に付いたか、学修の順序性や教授内容の難易度は適切だったか等、カリキュラム評価を行う。完成年度を迎える時期まで学生・教員の両方を対象にカリキュラム評価を実施し問題点を明確にできるように評価のあり方を検討しながら進める。

⑨チューター制度・担任制度

看護学科は、1人の教員が10名程度の学生をサポートする「チューター制度」を、また、リハビリテーション学科は、担任制度を設けて、1クラス2名の担任及び副担任を配置して、履修計画から修学指導、学生生活相談などにきめ細やかに個別で対応し学生の年間の成長をサポートする。

⑩オフィスアワー

学生と教員のコミュニケーションの充実の一助であるオフィスアワーを活用し、設定時間帯に学生からの授業・履修内容等に関する質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路などの個人的な相談も、専任教員が親身に相談に対応していく。

⑪学修支援・国家試験対策支援

総合教育科目は、理解できるまで行う丁寧な授業であり、専門科目を学ぶ上で大切な基礎学力をしっかりと身につけさせることを目的とする。そのために、入試等で新入生の基礎学力を見極め、個別の学修支援に役立てる。また、小テストなどの反復問題練習や国家試験の基礎的な学力問題も解かせることも行い、早期から計画的な国家試験受験対策を実施する。

⑫FD・SD研修

2020年度のふれあいグループの研修テーマに則り、全体研修会並びに医療研究会と連携しつつ、大学としてのFD計画を着実に履行していく。また、大学部会を活用したSD研修も実施する。

⑬IR機能の整備と活動の推進

本学におけるIR機能を強化するため、教職員が一体となった体制を更に整備するとともに、教学に関する情報の収集・分析により、本学が置かれている客観的な状況を把握し、教育活動の改善に努める。

⑭キャリア支援センターの充実

学生のキャリア形成に必要な事業の企画、カリキュラム編成及び必要な情報の収集を行うと共に、特に看護学科の兼務教員を中心に、国家試験対策に必要な事業の企画・実施、カウンセリング及び情報収集・提供等を行い、学生の国家試験合格率の向上を図る。

⑮大学院教育の充実

大学院生の受入れ体制、履修指導及び研究指導體制を充実し、学生の研究・教育の遂行に資するとともに、2年次学生を対象とする中間発表会、修士論文の審査体制の構築を図る。

(3) その他

⑯看護実践教育センター事業の推進

ア. 認定看護師教育課程（認知症看護分野）の充実 定数15名

認知症者とその家族の支援に関する最新の知識と技術を習得させ、水準の高い看護実践ができる認知症に関わる看護職を育成する。

イ. 認定看護管理者教育課程の充実

(ア) 認定看護管理者教育課程（ファーストレベル）定数50名

(イ) 認定看護管理者教育課程（セカンドレベル）定数20名

主にグループの病院や介護老人保健施設などの管理者として必要な知識を持ち、患者様やご家族などに対して質の高いサービスを提供できるよう組織を改革し、発展させる能力を有する看護師の育成に努める。

⑰看護師実習指導者講習会の開催・実施 定数20名

ふれあいグループの病院等における看護教育の実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導に必要な知識・技術を習得し、資質の向上を図る。

⑱教育訓練給付制度の講座指定

大学院保健医療学研究科保健医療学専攻について、一般教育訓練給付金対象講座の厚生労働省の指定を受けるため、2020年度に必要な手続きを行うとともに、受給資格を満たした学生が修了後にハローワークで規定の給付金が支給されるしくみを構築する。

⑲湘南医療大学臨床医学研究所の充実

湘南医療大学と、ふれあいグループの各施設との連携により、臨床・研究・調査を実施する。研究員は個人研究を行うほか、ふれあいグループの保健・医療・福祉・教育機関を中核として外部施設との共同研究を進め、その成果を湘南医療大学の教育に還元することを目指すものである。研究員の研究費助成のほか、科研費等外部資金の申請・獲得の支援を行う。

2) 茅ヶ崎看護専門学校

基本方針

目標 1. 教職員は教育者としての自己の資質を高め、その役割を遂行する。

- 1) 教育の本質を見極める思考を深化させる。
- 2) 学修者が自ら学び続けるモチベーションを持つ事ができる資質を培う。
- 3) 学修者にとって魅力ある教授方法を高めることで、「学び」を楽しむことのできる学生を育てる。
- 4) 日々の教育実践の評価を通し、国家試験合格を確実にする学力の向上を図る。
- 5) 学生同士が愛情・思いやりを持って他者に向き合えるように慈しみを持って寄り添う。
- 6) 教員は学生に対し、「学ぶ姿勢」について役割モデルを演示する。
- 7) 日々の体験を通し、看護者としての倫理観を醸成する役割を遂行する。

目標 2. 教職員は看護学の専門家としての研究的能力を高める。

- 1) 教育者としての行動を自ら律し、考察する能力を持つ。
- 2) 学科目評価を通し、教育者としての課題を明らかにし、教育力の向上に取り組む。
- 3) 自分自身の専門性を高めるための研究的視点を深め、学会・研究会に参加し、専門分野の研鑽に努める。
- 4) 学会発表等を通じ、研究を追求し、他者との交流を持つ。

重点目標

- 1) 2022 年のカリキュラム改正に向けて今後の看護師教育における重点項目並びに必要なと思われるキーワードを盛り込み、時代のニーズに合ったカリキュラムを検討、構築する。
- 2) 様々な背景を持つ入学者を「支援する」「育てる」意志を持ち、どんな困難をも乗り越えられる学校運営を教職員一丸となって行う。
- 3) 入学時の動機づけが在学中 3 年間を通しての態度の根幹となる。教職員は入学時の動機づけを学生に対し、丁寧な指導・支援を行う。また、良き学修習慣を身に付けるよう学生を導く。
- 4) 1 年次より国家試験対策を計画的に実践し、基礎学力を向上させる授業を展開し、100%合格を目指す。
- 5) ふれあいグループへ就職する意思を持てる関わりをし、「グループ就職の伝統」を継続させる。
- 6) 多くの学生がふれあいグループ奨学金を活用し、安心・安定した学生生活を送れるよう支援する。
- 7) 学生の生活態度の把握と指導を行い、休退学者 0 名を目指す。
- 8) 看護師になるという動機づけ、学ぶことの楽しさ、看護を行うことの喜びを喚起する教育を実践する。

3) 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校

2020 年度の基本方針

学校目的（本校のビジョン）をもとに各教職員が行動計画を実践し、学生はもとより保護者や卒業生にも信頼される学校運営を推進する。

- 1) 教職員一人ひとりが学校運営に積極的に関わり、活力ある学校づくりを推進する
- 2) 学生への支援プログラムを充実する
- 3) ふれあいグループに有益な人材を供給する

<教務課 基本方針>

- ・学習習慣や生活習慣などの確立を徹底する。
- ・医療スタッフとして必要とされる優しさなど人間力を高める教育に心がける。
- ・国家試験の合格率を高める。

<事務課 基本方針>

- ・来校者に対し、個々に対応できるプログラムや本校の魅力を前面に出した、教職員一丸となった風通しの良い明るい学校運営を徹底する。
- ・ふれあいグループの各病院と連携し、病院の見学や職場体験など、グループのスケールメリットをアピールする。
- ・学生募集活動として、資料請求者数や来校者数の減少を踏まえた広報戦略を確立する。

重点目標

<教務課・事務課共通 重点目標>

- 1) 学生募集の強化
- 2) ふれあいグループとの連携強化
- 3) ふれあいグループへの就職希望者の増大
- 4) 新カリキュラムへのスムーズな移行

<教務課 重点目標>

- 1) 国家試験の合格率100%を目指す。
- 2) 退学・休学防止
- 3) 成績不振者への対応強化

<事務課 重点目標>

- 1) 新カリキュラムに対応した学習環境の整備
- 2) 学校運営力の向上

<理学療法学科>

1. 学校目的（本校のビジョン）を実現できるよう、在校生に対して実施する内容

1) 新1年生に対して早期から学習習慣と生活習慣、専門職への適性の定着を図る

・4年間の学習・生活の両面に大きく影響を与えることから、きめ細かい指導を心がける。HR や面談での担任からの指導のみならず、授業担当者を含む全教員が関わっていく。

・高校までにありがちな習慣（やるべきことをやらなくてもなんとなくかなる）の改善と、専門職に就くための学習習慣や生活習慣の基礎を築くことに重点をおく。特に、授業中に寝るという行為については1年生に限らず、他者および自身への悪影響を理解させ厳しく指導する。ただし、注意および指導の際は、学生の人格を否定することなく、不適切な行為や心構えそのものに焦点をあてて改善を促していく。

・解剖学・生理学を中心に既習範囲の定着度合い（成績）に合わせて定期的に補習を実施する。補習は週1回ペースで実施。予め時間割に組み込むことで確実に実施できるようにする。

・新カリキュラムの基礎科目に「生命科学」を新設する。従来からの「物理学」とともに自然科学の基礎「物理・化学・生物」の講義をすべて専任教員が担当することで、教育効果を高める。

2) 進級するにつれ、着実に知識・技術・社会性が身についた学生に成長するよう教育する

・ふれあいG の理念を念頭に、知識・技術・社会性に優れた理学療法士の育成に向け、全ての学年において充実した教育内容、細かな指導、成績（課題や試験の結果）の適正な評価で教育にあたる。

3) 成績下位者の学力の底上げ

・休退学の最大の原因である成績不良を回避するために、直接の学習指導（確認テストや補講、質問に答えるなど）はもちろん、勉強方法や専門職の面白さを伝えて、就学継続のモチベーションを上げる。

・講義以外で学生自ら取り組む演習形式の補講や勉強会を正規授業の20%程度の時間取り入れる。

4) 成績上位者を伸ばす教育の実施

・成績上位者をさらに伸ばす教育も重要と考える。普段の授業の中では難しいが、卒業研究などの関わりの中で、基礎・専門ともに高いレベルの内容を提供しながら教育・指導を実施していく。成績上位者の素質をさらに伸ばしていくことで、学校全体としてアカデミックな雰囲気を作り上げる。

5) 臨床参加研修の適切な運営管理、研修不適応者への対応策検討

- ・ CCS 方式の研修における学内および研修先で生じている問題点の分析、改善をさらに進めて行く。リハ部会、研修先と協力し、CCS 方式の再確認や学生指導の方法について勉強会を設ける。
- ・ 1 年次から実施する OSCE をより充実させていき、社会性や総合的な能力の欠如など臨床研修の場で生じる問題に早い段階から対応する。

6) 国家試験対策の強化

- ・ 3 年次10 月から本格的な国家試験対策を実施。学生自身の取り組み姿勢を喚起させ、実際の到達度向上を図るために4 年次に国試の内容で構成した2 科目を課し、学習到達度の適切な評価を行う。この科目試験及び全国模試の結果をもとに12 月からの個別対策強化対象者をピックアップして対策を講じる。この時点で対策強化対象者が卒業生の20%以内となるようにし、最終的に高い合格率（100% ～（全国平均+5%以上））を目指す。授業の他に「国試の勉強方法」も伝授する。

7) 学習意欲を高めるための環境整備

- ・ 学生が質問しやすい雰囲気をつくる。自習や学習指導の場に普通教室も有効活用する。4 年生の国家試験対策追い込み時期には、年末3 日間および年明けの日曜・祝日開校によるバックアップ体制を継続する。

8) 学校行事を利用して、学生および学内の雰囲気活性化を図る

- ・ POSS 祭などの学校行事に全教員が積極的に参加し、学業以外で学生との関わりを深める。
- ・ スポーツ大会等のレクリエーション活動も活発に行い、学校生活の楽しみの一つとなるようにする。

9) 医療専門職、社会人の先輩として評価・信頼され得る学生対応の実施

- ・ 成長過程の学生に対し、親しみやすい雰囲気をおこし、根本では信頼される教員となるよう、どの学生にも平等に真摯な態度で教育にあたる。
- ・ 医療従事者を養成していること、また学校説明会など保護者の来校も多いことを忘れず適切な身だしなみを心がける。

10) 数多く優秀な人材をふれあいグループへの就職につなげる

- ・ 一人でも多くの優秀な人材がふれあいグループに就職するよう、人事、リハ部会と共同でシステム作りにも貢献する。就職説明会の時期の早期化、学生への情報提供を明確化するなどの試みは徐々に強化されているが、更に進化させることで将来のふれあいグループを担う人材の確保に努める。

<作業療法学科>

1. 学生募集の強化 ～募集定員を充足させるための取組み～

前年度学生募集において良好な結果となった要因を分析し、本年度は学生の質に拘れる入試になるよう、学校説明会などで来校した生徒たちが、「ここでぜひ学びたい」と思えるような関わりを強化する。その為、徹底した個別対応を行い、「大事にしてくれる学校」という印象で他大学との差別化を図り、当校の特色や存在意義を明確にする。

- ・ ガイダンスなどへ教員が積極的に参加し、説明会への来校に繋がる個別対応をおこなう。
- ・ 進路指導担当教員に対しても学科の特色について啓発をおこなう。
- ・ Web サイトを活用し、本校の作業療法学科や作業療法に関する情報発信も行う。

2. 教育内容の整備

- ・ カリキュラム改変に伴う教育内容の再整備を行っていく。
- ・ 新カリキュラムにより新たに開設される授業を有効に活用し、1 年次は学習技能の向上を学生と教員が共に目標として共有する
- ・ 2 年次以降はカリキュラム改変を契機により実践的な授業を充実させ、知識の定着の促進を図る。同時に、各教員が担当分野の教育力向上を目標に教員研修会等に積極的に参加し自己研鑽に努める。

3. 学生に対する支援

- ① 国家試験全員合格
 - ・4年次の国家試験対策の強化。
 - ・1年次からの基礎固めと国家試験問題レベルを最低水準とした講義および試験の設定。
- ② 実践力の強化
 - ・1年次より、臨床現場をイメージした実技授業の実施。
 - ・オスキーを参考にした実技試験実施。
 - ・CBL学習やグループ学習による学生の自己学習能力の強化。
- ③ 人間的成長の促進
 - ・1年次 自己の課題を客観的に判断する必要性の理解を促進する。
 - ・2年次 課題に対して具体的かつ妥当な目標を設定する事を促進する。
 - ・3・4年次 目標課題を実践する思考を促進する。
- ④ 退学・休学防止
 - ・学生のモチベーション維持向上できるような、学級運営・講義内容・学校づくりを行う。
 - ・成績不振者への早期対応。
 - ・欠席者への即時対応。
 - ・学生とのフォーマル・インフォーマルな交流による情報収集。
 - ・学生と教員・学校との信頼関係の強化。
 - ・上記に関することの保護者との連携。

4. ふれあいグループ（病院施設・大学・専門学校）との連携強化

- ① 病院施設との連携
 - ・病院施設によって、実習の内容や到達目標に齟齬がないようにする。クラークシップを基本とした実習スタイルを徹底する。
 - ・グループへの就職希望者を増やすために、実習以外のコミュニケーション場面の設定。グループ内OTによる講義実施。
 - ・長期的な連携強化を目指した人事的交流の検討。
- ② 大学・他の専門学校
 - ・実習時期及び実習スタイルのすり合わせ。
 - ・説明会や入試日程などのすり合わせ。
 - ・大学や他校への講師依頼の検討および当方からの協力の検討。

<言語聴覚学科>

- 1. 学生募集の強化
 - ・定員確保の実現を図る。
 - ・質の高い学生を入学させる。
 - ・学校説明会などの学生募集活動に主体的に関る。
 - 1) 説明会は教員、学生（卒業生・在校生）・事務の3者で運営する
 - 2) 参加者に選択して頂ける説明会の実現を目指す。
- 2. 学科運営を軌道の乗せ、大卒2年課程の基盤を確立
 - ・入学前教育・オリエンテーションの充実を図り、入学時からスムーズいくように配慮する。
 - ・チーム医療教育やキャリア教育等を推進し、教育システムの構築を図る。
 - ・担任制や個別面接等を通し、学生一人ひとりに応じたきめ細かい対応を行き届かせる。
- 3. 知識・経験・人間性が備わった臨床家の育成実現のため教育システムの構築
 - ・学生のニーズの把握をし、配慮の行き届いた教育サービスを提供する。
 - ・各教員がスキルアップを常に試み、質の高い学習指導や学生指導を実現する。
 - ・実習前教育や実習後教育を充実させ実習の整備を図る。学生が臨床的経験を積める場をより多く提供する。
 - ・ボランティア活動等を通じて学生の対人援助技術の向上を実現する。
- 4. 評価システムを強化する

・2年間で適切な学生評価を実現する為評価の精度を高める仕組みを構築する。実現に向けて1年生前期の評価と実習前の評価をこれまで以上に強化する。

5. ふれあいグループに貢献できる言語聴覚士を育成する

・グループ内実習を生かし学科教員と実習指導者が一体となり学生を指導する体制を整え、即戦力としての人材の育成を図る。

6. 退学・休学防止を強化

- ・教員が学生情報を共有化する。
- ・学生に関する情報の交換は教員間でルーティン化する。
- ・学生の日常的な問題に関しては担任が対応する。
- ・必要と判断した場合、親と連絡し相談をする。
- ・定期及び随時の面談を活用する。

7. 国家試験対策を強化し高い合格率を実現

- ・セミナーや小テストを1年次から実施する。
- ・模擬試験を頻回に実施し、学生ごとの結果を分析し、個々の学生指導に役立てる。
- ・問題のある学生を早期に抽出し補講や個別対応を仕上げとして行う。
- ・既卒者対策を現役生に準じて行う（学習スペース解放・模擬試験・教員対応）

<社会福祉専攻科（付帯教育事業）>

今後3-5カ年を見据えた、専攻科運営体制のグランドデザイン策定に着手し、下記の2から6と連動させ、2020年度上半期にはその策定を完了できるよう努める。

・修了生も、グループへの就職のインテンシブが働くよう、関係部署との連携強化に努める。

1. 相談援助実習受け入れ施設との連携強化

- ・昨年に引き続き、医療社会サービス部会との連携強化のもと、グループでの実習から就職に結びつくルートを鋭意強化する。
- ・面接授業の講師として、グループ病院・施設の実習指導者に依頼を強化し、受講生とふれあいグループとのマッチングの場とする。

2. 受講生募集の強化および奨学金制度創設の検討

- ・募集担当事務からのコンサルテーションを踏まえ、他校の状況も加味しつつ効率的且つ効果的な募集広告方法（資料請求者への積極対応を含む）を検討、実施する。
- ・ふれあいグループに就職したい意欲のある者を入学に導くため、5年以上の勤務を前提とした奨学金制度導入を検討する（グループ在職者で専攻科入学希望者に対しても同様）。2021年度導入予定の新システムとの相乗効果で、育成強化を更に強化する。

3. 教育内容の整備及び留年、休・退学者の防止

- ・専任教員の研修継続・指導力のある非常勤講師の招聘により、教育の質の強化を図る。
- ・レポート作成の支援及びレポート未提出者には定期的に連絡確認を行い、未修得科目が積み重なる前に早期介入し、留年や休・退学とならないように努める。
- ・状況により、面接方法による個別指導を実施する。
- ・DVD等、わかりやすい技術習得のための教材整備を積極的に進める。

4. 国家試験合格率の向上に向けた取り組み

- ・2020年度下半期に月1～3回程度の受験対策講座（含外部講師）を企画し、本年度に実施した大規模な講習会開催を含め、受講生の参加を奨励する。
- ・SNS等の媒体活用により、受講生向けの最新情報の発信を図る。
- ・国家試験対策の取り組みについて、2020年上半期までに全在籍生の動向把握を強化する（必要に応じ、8月以降に個別指導を強化する）。

5. 2021年度以降に予定されている新教育課程改正への準備

・2021年度以降に社会福祉士養成校の教育課程改正が予定されているため、申請準備を行う。

6. e-ラーニング導入に関する調査、準備（2021年度以降目標）

・レポート課題のオンライン提出、レジュメ、資料、各種様式等のシステム整備

・上記に伴い、手書レポートの郵送限定方式を見直し、多様化する受講生のニーズに対応できるよう、インターネットによるレポート提出、質疑等学習環境の改善につなげるべく、他養成施設等の状況調査研究等を継続して行う。（2019年度より継続）。

4) 湘南医療大学附属下田看護専門学校

2020年度の基本方針

- 1) 少子化現象および大学への進学が進む中においても尚、学生数の定員を確保する。
- 2) 広く静岡全县および県外からの優秀な学生の確保に取り組む。
- 3) 教育内容は、改定カリキュラムの主旨に沿って、科学的看護実践力を高めること、コミュニケーション能力をつけること、医療安全のスキルを身に付ける等を柱とする。
- 4) 本校の特徴としている「国試サポートプログラム」をさらに充実した内容へと進化させた学習支援体制とする。
- 5) 退学者の減少をめざし、40人が揃って卒業し、揃って就職できるよう指導する。
- 6) ふれあい奨学金の推奨に努め、グループ内病院・施設への看護力充実の一役を担う。
- 7) 教員の定員を確保して教育活動の安定化を図る
- 8) 湘南ふれあい学園の禁止事項を中心にした医療人としての道徳、マナー教育の充実
 - ① 学校敷地内での全面禁煙
 - ② 携帯電話・スマートフォンの授業中の教室への持込みの禁止
 - ③ 誹謗中傷行為の禁止、安易・軽はずみなSNSへの投稿の禁止
 - ④ 麻薬、危険ドラッグ、悪徳商法への関わり禁止

重点目標

教育内容の整備・改善・指導方法について以下の2点を重点とする。

○学年毎の目標を明確にして、職員の共通認識を持った指導をする。

○専門職業人の育成につながる指導を強化する。

- 1) 1学年目標
 - ① 学生が学生生活に適応でき、学習習慣を身につけることができる。
 - ② 対人関係におけるコミュニケーション能力を高めることができる。
 - ③ 看護実践力につながる基礎看護技術の原理、原則を身につけることができる。
- 2) 2学年目標
 - ① 専門領域科目の関連性を意識した学習ができる。
 - ② 学校行事等を中心に主体的な企画力、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。
 - ③ 自己を取り巻く人々との関わりを通し、社会性を身につけることができる。
- 3) 3学年目標
 - ① 臨地実習において既習の知識を活用できる。
 - ② 心身の健康管理を図り、学習の継続ができる。
 - ③ 国家試験の合格を目指し、模擬試験等のデータを活用し補強学習を積み重ねる。
 - ④ 実習グループにおける役割を通して、チーム活動における専門職業人としての社会性を身につけることができる。

部門別の目標

- 1) 看護学科の目標
 - 1 実習施設との連携
 - 2 国家試験の高い合格率の実現

- 3 休退学の防止
 - 4 ふれあいグループへの就職の促進
 - 5 医療人としての道徳、マナー教育の充実
 - 6 研究活動の実施
- 2) 事務課の目標
- 1 校名変更の周知
 - 2 学生募集対策
 - 3 円滑な学校事務の遂行

5) 医療ビジネス観光福祉専門学校

2020年度の基本方針

(1) ふれあいグループに有益な人材の供給

「個」としてのアイデンティティを見つけ出し、「公」としての自覚を持ち、ふれあいグループへの参画に寄与する人材の育成に全学科で取り組む。

- ① 介護福祉学科：グループ内への全員就職はもちろんのこと、技術力と実践力を現場実習で磨き、患者様や利用者様に信頼していただける介護福祉士の養成を目指す。
- ② 医療ビジネス学科：医事・総務、医療情報分野への有能な人材を送り出すために、必備資格と検定の保有数を増やし、即戦力として活躍できる環境を作る。
- ③ 観光学科：手話・サービス介助士・介護職員初任者研修などの医療福祉系科目を受講させ、グループの関連企業に応えられる人材を発掘する。

(2) 休学者・退学者の撲滅

休退学者を出さないために入学前から卒業まで「進学相談」「生活指導」「学習指導」「キャリア指導」を継続的かつタイムリーに実施し、学生との信頼関係を築き、モチベーションの減退のサインを見逃さないように努め、休退学者を無くす。

(3) 定員確保とグループ就職につなげる広報活動

魅力ある学校づくりを行い、各学科の特性を活かし、グループに貢献できる学生の確保を行う。

- ① 介護福祉学科：「グループ推薦入試制度」の設定により、多くの学生を支援できる環境が整ったことから、高校および日本語学校の訪問先すべてにアピールし、入学者全員がグループ推薦入学者となるよう定員の確保を行う。
- ② 医療ビジネス学科：学校説明会や個別相談、高校のガイダンス等で母体となる「ふれあいグループ」への就職メリットを伝え、グループ就職に対する意識付けを行うとともに定員の確保する。
- ③ 観光学科：トラベル・交通専攻の募集停止に伴い国際観光専攻とホテル・ブライダル専攻で定員の確保を行う。競合校の状況を調査し、他校との差別化を図りながら定員を確保する。

(4) 実習施設との連携

広報活動における施設見学は、進路を決める高校生にとってのイメージアップと将来像につながる好企画であるため、今後も継続して実施する。また、入学後の実習授業は、施設担当者や先輩職員の姿が刺激となり、ここで就職したいと希望する学生もおり、グループ就職にも効果が現れている。今後も実習施設と連携し、協力体制を整え、信頼関係を築く。

(5) カリキュラム再編と指導力向上

- ① 学科間でシラバスの内容が同一の科目を合同化し、教室内環境の活性化と講師料の抑制を図る。
- ② 学生が総合的に学べるように、選択科目をできるだけ必修化していく。
- ③ 実務経験のある講師を活用し、オムニバス授業を取り入れ、より実践的な理解を学生に求める。
- ④ 教員相互の授業見学や関係各所から意見を伺い、学生の理解力向上につながる授業を行う。

重点目標

(1) ふれあいグループに有益な人材の供給

①2020 年度学科の構成

	学科	専攻	定員
2 年	医療ビジネス学科	医療経営	40
		医療情報管理	
	観光学科	トラベル・交通	40
		ホテル・ブライダル	
介護福祉学科		35	
1 年	医療ビジネス学科	医療経営	40
		医療情報管理	
	観光学科	トラベル・交通	40
		ホテル・ブライダル	
介護福祉学科		35	

② 2020 年度グループ入職ガイドラインの策定とカリキュラム等の見直しと改善

各学科とも目指す職種別に就職先施設と連携を図り、目指す仕上がり像の見直しを行う。その上で、仕上がり像に含まれる知識・技術・技能を把握し、学科ごとの教育目標（成績評価や資格取得など）と教育カリキュラム（授業デザイン）の見直しと改善を行う。見直し改善内容は各授業シラバスに示す。

③ 学生が様々な困難にぶつかったとき、学生自らが努力し解決する力を身につけさせる

在学中から困難を乗り越える力を身につけられるよう教育指導する。本校卒業生は、どの施設に就職しても「主体性があり、途中で投げ出さず粘り強く業務に取り組む姿勢を持っている」と言われるように教職員一丸となって指導にあたる。

(2) 休学者・退学者の撲滅

① 目的意識の植え付け

入学前から卒前卒後の目標をイメージさせることを学校説明会の説明内容に加え、高い修学意識を持った学生を確保できるようオープンキャンパスや入試制度の見直しを行う。また、入学後はキャリア教育を通して目的意識を常に保てるようグループ施設の紹介や目標とする業務のやりがい等を紹介する。

② 学習意欲の維持

学ぶ楽しさを感じる授業を目指し、学習意欲を理解させ、学習成果を視覚化することによってモチベーションの維持を図る。また、学習の遅れが出た学生には、補習や個別指導で学習意欲が低下しないよう学習指導を行う。

③ 人間関係と生活指導

学生個々の性格特性を担任はよく把握し、人間関係が築けるようにフォローする。また、学生がお互いの存在を認め合い、クラス内での居場所を確保させ、安定したクラス運営を行う。更に遅刻や欠席が目立つ学生には、すぐに個別面談を行い、本人の悩みを親身になって聞き入れ、スピード感をもって対応する。家庭やアルバイト先での悩みも吸収し、学生の生活基盤が安定できるアドバイスを行う。学生サポート委員会を組織し、学生が相談しやすい環境を整える。

(3) 定員確保とグループ就職につなげる広報活動

① 魅力ある学校づくり

- ア) 保護者および地域社会、小中高校との連携を図り、開かれた学校づくりを行う。
- イ) 学習意欲向上と資格取得および基本的知識・技術を習得させるための工夫・改善を行う。
- ウ) 基本的な生活習慣の確立と学則の遵守および社会マナーの習得とコンプライアンス意識

を身につけさせる。

エ) キャリア教育等を通して将来を見通す力と主体的な職業観を育てる進路指導と活動支援を行う。

オ) どんな困難も乗り越えられるメンタルの強さと乗り越え方を身につけさせる。

② 定員の確保

(ア) 入試制度の改善

- ・ 高校 3 年生に対する入試制度は、指定校推薦、一般、AO の 3 通りとし、本年度より指定校推薦で面接試験を実施する。
- ・ 介護福祉学科において「グループ推薦入試制度」を導入する。
- ・ 高校既卒者は AO と一般入試の 2 通りの入学方法とする。
- ・ 入試日程の見直しと改善を実施する。
- ・ 留学生の一般入試の見直しと改善を行う。

(イ) ガイダンス・高校（日本語学校）訪問

- ・ 全教職員が一丸となって広報活動に取り組む。
- ・ 高校訪問は分担制とし、高校別カルテを活用した訪問を実施する。
- ・ 訪問時期は高校の事情等を鑑み、適切な時期に実施する。
- ・ ガイダンスは、本校に既入学している高校を中心に参加する。
- ・ 高等教育無償化認可校であることを説明できるようにする。

(ウ) オープンキャンパス

- ・ 高校 3 年生の進路選択傾向を考慮して、2020 年 7 月までを重点期間と捉えて実施する。
- ・ 高校訪問やガイダンスを中心に広報活動を展開し、オープンキャンパス参加者を募る。
- ・ 時期に応じた実施内容や情報発信を行い、内容に変化をつけることで志願者の本校への興味を継続させ出願につなげる。
- ・ 開催に当たっては参加者個々のニーズに応じた臨機応変な対応を心がける。

(エ) ホームページ、リスティング広告

ホームページは、訪問者が知りたい情報を分かりやすく伝える。また、競合校をリサーチし、常に学校行事やオープンキャンパス案内、在校生メッセージなどの情報発信に努める。

(オ) 学園内の連携

学園内の大学及び医療系 3 校との連携を行い、本校の存在価値を高める。

(カ) 小中学生への対応

中期的な視野に立ち、小中学生に向けた広報活動に取り組む。具体的には神奈川県専修学校各種学校協会主催事業「仕事のまなび場」、「チャレンジスクール」に積極的に参加する。更に個別に小学校や中学と連携し、本校の分野の職業体験の機会を提供する。児童生徒に早期から本校を認識させ、将来、本校への入学をイメージできる内容を構築していく。

(キ) 町田・相模原コンソーシアムにおける市民大学の開催

本校の認知度向上を目的に、「市民大学」を年 2 回開催し、地域社会に貢献する。

(4) 実習施設との連携

① 入学前施設見学（対象は高校生とその保護者）

介護福祉学科：グループ内の関連施設と調整して見学を実施

医療ビジネス学科：湘南東部総合病院の医事課および情報課の見学を実施

観光学科：神奈川県内および町田市内のホテルの見学を実施

② 入学後の実習

介護福祉学科：グループの福祉施設における施設実習を実施

医療ビジネス学科：グループの病院施設における病院実習を実施

観光学科：神奈川県、静岡県内のホテル・旅館におけるインターンシップを実施

(5) カリキュラム再編と指導力向上

① 入職ガイドライン策定に伴うカリキュラム等の見直し

(ア) 就職先（配属先）施設との連携

- i. ふれあいグループ施設や関連会社との連携を図り、現場で活躍できる人物像を把握する。
- ii. 入職後にミスマッチが起こらないよう施設見学や職場実習などの機会を充実させる。
- iii. ふれあいグループの理念を学生に浸透させる。

(イ) 教育目標（教育の担保）

- i. 成績評価目標：成績評価基準を見直し、具体的数値目標を採用し、それを満たす教育を行う。
- ii. 出席率/休退学率目標：出席率を高水準にする方策を検討し、休退学者の未然防止を行う。
- iii. 資格取得目標：必要な資格を検討・導入し、目標達成のためのカリキュラムを充実させる。

(ウ) 基礎学力および社会人基礎力の向上

- i. 初年度教育を通じて、基礎学力の向上およびマナー、コミュニケーション能力等社会人基礎力の向上を継続して実践する。
- ii. 入学時より学生の個人能力を把握し、就職サポートを充実させ、社会に貢献できる人材育成のためのキャリア教育を提供する。

② 高専接続を考慮した授業カリキュラムの展開と授業デザインの充実

変化する高校教育の延長線上で専門教育を履修できるようにするため、以下の内容を充実させる。

(ア) 入学前教育（入門授業含む）

- i. 専門教育を受けるための基礎学習を入学前に展開する。
- ii. 入門授業を実施し、仕上がり像と目標、学習内容を把握させる。

(イ) 初年度教育（1年前期に展開）

- i. 朝トレなど基礎学習および学習習慣を身につけさせる学習
- ii. 問題発見技法、解決技法など課題に臨む考え方や行動に関する学習
- iii. レポートの書き方など文書作成に関する学習
- iv. 目標進路に対する動機付け、キャリアビジョン・デザインに関する学習
- v. 社会の構成員としての自覚、責任感、倫理観に関する学習
- vi. メンタルヘルス、精神的・肉体的健康維持に関する学習

(ウ) 能動的授業の展開

- i. 学生が自ら学習を深められる（能動的）授業を工夫する。
- ii. 実習・インターンシップを積極的に導入する。
- iii. 演習やワークショップを活用した授業を展開する。
- iv. 調査・研究発表を定期的実施する。
- v. 自習できる環境を整える（図書室等）。
- vi. 学校行事の充実

(エ) ポートフォリオの活用と自己管理

- i. 入学から2年間トータルの学習計画・改善課題の明確化・学修成果をまとめたポートフォリオを作成させ管理させる。
- ii. 入学時に能力適性、性格適性、エゴグラム、社会人基礎力、厚生労働省職業適性検査等を実施し、自己の能力を把握させる。
- iii. 自ら目標管理し、自ら考える学習方法を身につけさせ、学習到達度をチェックする。
- iv. 定期的に個別面談を行い進捗状況や成果、今後のスケジュールなどをアドバイスする。

③ 教員力・組織力・環境力の強化により更なる学生満足度の向上をはかる。

(ア) 教員力

- i. 教科指導能力：自ら授業内容を点検・反省し、相互授業見学の実施により指導力を強化する。
- ii. 学級運営能力：担任の随時面談により、問題の早期発見と対応で、退学・休学を防止する。
- iii. 校務分掌遂行能力：学校のプレゼンス向上を目標に様々な学校運営に参画できる。
- iv. 資格取得、技能技術の習得指導力：知識から知性へと働きかけ、実を残す学生教育ができる。

(イ) 組織力

- i. 学生の基本的な生活習慣の確立
- ii. 学校行事の充実：学校行事に主体的に参加することで共同作業をする体験の機会を増やし、仲間作りやコミュニケーション能力の育成と活気ある学校生活を実感できる工夫をする。
- iii. 社会的・公共的マナーの習得

(ウ)環境力（6 S活動の学生への浸透）

- i. 継続的な美化・ボランティア活動
- ii. ものを大事にする心の育成
- iii. 挨拶が行き交う明るい校舎
- iv. やって良いこと悪いこと（別紙3）の道徳的判断力の育成

(エ)その他

- i. 事件、事故、犯罪などに巻き込まれないよう普段から継続的に注意を促し、指導を行う。
- ii. 個人情報の取扱、特に SNS などの利用におけるコンプライアンス意識を高める指導を行う。
- iii. 留学生の出席管理および校納金管理を強化徹底する。

6) 幼保連携型認定こども園みどり幼稚園

2020年度の基本方針

ふれあいグループの理念である「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」に基づき、園児一人ひとりの持っている力を信じ、子どもの心に寄り添い、明るくのびのびとした雰囲気の中で「生きる力」を育み「やる気のある子」「心の豊かな子」になるよう保育・教育活動を行う。乳幼児期は周囲への依存を基盤にしつつ自立を目的としており、周囲との信頼関係に支えられた生活の中で、園児一人ひとりが安心感と信頼感を持っていろいろな活動に取り組み、体験を十分に積み重ねていく。1歳から就学前までの一貫した保育・教育を行い、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を考慮した保育・教育活動を行う。

幼保連携型認定こども園みどり幼稚園の保育・教育目標である

- 1、 丈夫な体を持つ子に
- 2、 正しい考えや行動が出来る子に
- 3、 自発性の高い子に
- 4、 創造力の豊かな子に

を踏まえて教職員は研鑽に努め、指導力の向上をはかり、その成果を保育・教育活動に活かしていく。

重点目標

○健康[健康で安全な生活を作り出す視点から捉え、いろいろな状況に思い巡らせ、心や体を働かせる]いろいろな遊びを行い、十分に体を動かす。

- ・身の回りを清潔にして衣類の着脱、食事、排泄など、生活に必要なことを年齢や成長に合わせて自分で行う。
- ・食育を考え、食育活動を行い、保育者やともだちと一緒に食べることを楽しむ。
- ・丈夫な体づくりを目標に乾布摩擦の励行、体育講師による運動全般の指導を受ける。

○人間関係[自立心を育て、人と関わる視点から捉え、他の人々と親しみ思いを巡らせ支えあって生活する]

- ・自分で出来ることは自分でする。
- ・自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
- ・いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。
- ・友だちと楽しく活動する中で共通の目的を見だし、工夫や協力をする。

○環境[周囲の環境に好奇心や探究心を持って関わり、生活に取り入れていこうとする視点から捉え、考えたり扱ったりする]

- ・身近な物や遊具に興味を持ってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。
- ・日常生活の中で数量や図形などに関心を持つ。
- ・身近な物を大切にする。

- ・自然に触れて生活し、その大きさや美しさ、不思議さなどに気付く。

○言葉[言葉に対する感覚や言葉で表現する視点から捉え、経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現する]

- ・保育者やともだちの言葉、話に興味や関心を持ち、親しみを持って聞いたり、話したりする。
- ・生活の中で必要な言葉が分かり、使うことができる。
- ・親しみを持って日常の挨拶をする。
- ・絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう。

○表現[豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする視点から捉え、感じたことや考えたことを自分なりに表現する]

- ・生活の中で様々な音・色・形・手触り・動きなどに気付いたり、感じたりして楽しむ。
- ・いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
- ・音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使い、楽しさを味わう。
- ・描く、作ることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。
- ・自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

(乳児)

- ・乳児一人ひとりの発育及び発達の状態や健康状態について適切に判断し、対応する。
- ・保護者との信頼関係を築きながら保育を進める。保護者からの相談に応じ、保護者支援に努める。
- ・食事・排泄・睡眠・衣類の着脱・身の回りを清潔にするなど基本的な生活習慣が身に付くよう配慮する。
- ・安全で安心して様々な遊びができるよう配慮し、活動しやすい環境を整える。

(幼児)

- ・クラスの活動だけでなく合同保育や異年齢の交流など、学年を超えた保育に取り組む。
- ・当番活動を通して、責任をもって行う、協力する、手伝うなど経験する。
- ・外遊びや運動を多く取り入れ、健康でのびのびとした活動を行っていく。
- ・一日の保育活動の中に絵本読み聞かせを取り入れる。
- ・誕生児を祝い、成長を共に喜ぶ。(月一回の誕生会を開催する)
- ・近隣の小学校や保育園と連携し、交流を深め、年長児の就学へと繋げていく。
(リズム遊びの共有、小学校探検、ゲームやクイズ、お正月あそび、ボールあそび、教員研修など)

(教職員)

- ・近隣の中学校の職業体験の受け入れや高校生との交流を行う
- ・ふれあいグループの各施設と連携を計り、協力する
湘南医療大学、茅ヶ崎看護、リハ校視聴覚学科の学生を受け入れ、幼児理解の学習に役立てる
- ・教職員・保護者と連携・協力をして園児の安全確保に努める。
- ・園内の整理・整頓・清潔・清掃を心がける。
- ・2ヶ月に一回、避難訓練を行う(地震・不審者・火災など)
- ・非常時に対応できるよう日頃から危機管理を意識し、日々話し合いを行う。

VI 財政計画

1 2020年度予算編成方針

(1) 事業活動収入の拡大を図る。

ア 学園の教育力、就職力、研究力を一層高め、各校の入学定員充足率100%維持し、学納金の安定、また、通信課程、看護研修事業等の付帯事業、臨床医学研究所等の付随事業の拡大を目指す。

イ 経常的な運営費補助金の確保と競争的資金等外部資金の獲得を図る。

ウ 寄附金収入の拡大

- ・ 連携同窓会の発足により、学校間連携を深め、学校法人の維持向上を図る。
- ・ 薬学部設置等目的別寄附金の募集を継続する。

(2) 事業活動収支の均衡を目指し、収入に見合った支出構造の実現を図る。経費を計画的に節減するとともに、予算は戦略課題に重点的に配分する。

ア 教育と教育環境の質的向上を図る施策に重点的に資金を充当する。

イ 競合大学・専門学校を意識しつつ、本学園の教育力を積極的・戦略的に広報展開する。

ウ 薬学部設置(開設前年度の図書、教育用備品、施設整備費)計画の着実な実施に向けた資金計画を実行する。並びに学生確保に向けた学生募集費用の計上

(3) 財務指標の具体的な目標値は以下の通りである。(詳細は、P28)

ア 人件費比率：43.1%の水準にあり、これは同系統大学の平均水準(53.8%)より抑えられた値のため、この水準を維持していく。

イ 教育研究経費比率：今後、本学の同比率を全国大学の平均水準(33.3%)まで引き上げ、教育の質向上を更に高めるように努力する。

2 予算案の概要 (詳細は、P30)

ア 資金収支予算の概要

資金収支計算書は、学校法人の当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入および支出の内容並びに当該会計年度における支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにするものである。

2020年度の資金収支予算は、資金収入(学生生徒納付金、手数料収入、寄附金収入、補助金収入等)の合計が、前年度繰越支払資金 3,293百万円を含み、7,196百万円を計上した。資金支出(人件費、教育研究経費、管理経費、施設設備費等)の合計は、3,903百万円で、この結果、差し引き 3,342百万円が翌年度繰越支払資金となり、前年度繰越支払資金 3,293百万円との差額は 49百万円の増となり資金収入の増加が見込まれる。

イ 事業活動収支計算書の概要

事業活動収支は、単年度の事業活動における収支内容と均衡状態を明確にし、経営状態を表すもので、法人に帰属する借入金等の資金的収入に充てる額と固定資産等の資金的支出に充てる額を除いた支出を計上するものである。

2020年度の事業活動収支予算は、事業活動収入(学生生徒納付金、手数料、寄附金、補助金等法人に教育活動のみに係る収入)は、3,714百万円を計上した。また、事業活動支出は、人件費、教育研究経費、管理経費等で、2,765百万円の予算を編成した。その他、教育活動外収入は、110千円、教育外活動支出では、借入金利息支払いで 44百万円の支出を計上した。

それにより、基本金組入前当年度収支差額は、911百万円の収入超過を見込んでいる。尚、基本金組入額(施設設備等の積み立て等に充当)は、1,224百万円を計上予定である。

ウ 主要財務指標

比率名	算出方法	令和1年度(予算)	令和2年度(予算)	全国平均(%)	評価
人件費比率	人件費	44.30%	43.1%	53.8%	▼
	経常収入				
人件費依存率	人件費	57.70%	68.0%	71.9%	▼
	学生生徒等納付金				
教育研究経費比率	教育研究経費	27.20%	20.4%	33.3%	△
	経常収入				
管理経費比率	管理経費	11.80%	11.0%	8.8%	▼
	経常収入				
事業活動収支差額比率	基本金組入前収支差額	14.50%	24.5%	4.9%	△
	事業活動収入				
基本金組入後収支比率	事業活動支出	81.30%	112.6%	106.5%	▼
	事業活動収入-基本金組入額				
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金	76.80%	63.3%	74.7%	～
	経常収入				
寄付金比率	寄付金	3.20%	2.4%	2.3%	△
	事業活動収入				
補助金比率	補助金	14.80%	8.8%	12.5%	△
	事業活動収入				
減価償却額比率	減価償却額	11.90%	5.2%	11.9%	～
	経常支出				
経常収支差額比率	経常収支差額	14.80%	24.4%	3.9%	△
	経常収入				
教育活動収支差額比率	教育活動収支差額	16.70%	25.5%	2.4%	△
	教育活動収入計				
基本金組入率	基本金組入額	-4.60%	-32.9%	10.8%	△
	事業活動収入				

経常収入＝教育活動収入＋教育活動外収入 計

経常支出＝教育活動支出＋教育活動外支出 計

全国平均は日本私立学校振興・共済事業団「平成30年度版今日の私学財政」より医歯系法人を除く
大学法人の全国平均を記載。

財務比率の高低の評価は、△ 高い値がよい ▼ 低い値がよい ～ どちらともいえない。

資金収支予算書(概要)

【資金収支】

収入の部

科目	前年度予算額	2020年度予算額	差異
学生生徒納付金収入	2,273,274,000	2,359,497,000	86,223,000
手数料収入	50,670,000	50,760,000	90,000
寄付金収入	72,600,000	880,000,000	807,400,000
補助金収入	539,165,000	328,901,000	-210,264,000
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	44,543,000	46,443,000	1,900,000
受取利息・配当金収入	144,000	110,000	-34,000
雑収入	57,975,000	56,005,000	-1,970,000
借入金等収入	2,000,000,000	0	-2,000,000,000
前受金収入	1,221,602,500	1,390,710,000	169,107,500
その他の収入	37,319,711	34,638,700	-2,681,011
資金収入調整勘定	-1,254,600,616	-1,244,256,500	10,344,116
前年度繰越支払資金	3,677,003,850	3,293,888,007	-383,115,843
収入の部合計	8,719,696,445	7,196,696,207	-1,523,000,238

【資金収支】

支出の部

科目	前年度予算額	2020年度予算額	差異
人件費支出	1,492,660,000	1,558,780,000	66,120,000
教育研究経費支出	568,011,000	466,538,000	-101,473,000
管理経費支出	358,910,144	350,710,000	-8,200,144
借入金等利息支出	50,203,000	41,792,000	-8,411,000
借入金等返済支出	2,126,865,000	304,129,000	-1,822,736,000
施設関係支出	828,740,107	30,050,000	-798,690,107
設備関係支出	45,050,000	1,156,005,000	1,110,955,000
資産運用支出	45,000	2,000,000	1,955,000
その他の支出	153,287,571	218,141,432	64,853,861
予備費	20,000,000	20,000,000	0
資金支出調整勘定	-217,963,384	-139,665,368	78,298,016
次年度繰越支払資金	3,293,888,007	3,188,216,143	-105,671,864
支出の部合計	8,719,696,445	7,196,696,207	-1,523,000,238

事業活動収支予算書(概要)

【事業活動収支】

事業活動収入の部

科目	前年度予算額	2020年度予算額	差異
学生生徒納付金	2,273,274,000	2,351,647,000	78,373,000
手数料	50,670,000	50,760,000	90,000
寄付金	72,900,000	880,350,000	807,450,000
経常費補助金等	539,165,000	328,901,000	-210,264,000
付随事業収入	44,543,000	46,443,000	1,900,000
雑収入	57,975,000	56,005,000	-1,970,000
教育活動収入計	3,038,527,000	3,714,106,000	675,579,000

事業活動支出の部

科目	前年度予算額	2020年度予算額	差異
人件費	1,511,760,000	1,599,780,000	88,020,000
教育研究経費	851,257,000	756,724,000	-94,533,000
管理経費	394,213,144	408,688,000	14,474,856
徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	2,757,230,144	2,765,192,000	7,961,856
教育活動収支差額	281,296,856	948,914,000	667,617,144

【教育活動外収支】

事業活動収入の部

科目	前年度予算額	2020年度予算額	差異
受取利息・配当金	144,000	110,000	-34,000
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	144,000	110,000	-34,000

事業活動支出の部

科目	前年度予算額	2020年度予算額	差異
借入金等利息	50,203,000	44,568,000	-5,635,000
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	50,203,000	44,568,000	-5,635,000
経常費差額	231,237,856	904,456,000	673,218,144

【特別収支】

事業活動収入の部

科目	前年度予算額	2020年度予算額	差異
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	5,600,000	6,700,000	1,100,000
特別収入計	5,600,000	6,700,000	1,100,000

事業活動支出の部

科目	前年度予算額	2020年度予算額	差異
資産処分差額	330,000	0	-330,000
その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	330,000	0	-330,000

科目	前年度予算額	2020年度予算額	差異
【予備費】	20,000,000	20,000,000	0
基本金組入前当年度収支差額	216,507,856	911,156,000	694,648,144
基本金組入額合計	-887,928,236	-1,224,776,064	-336,847,828
当年度収支差額	-671,420,380	-313,620,064	357,800,316
前年度繰越収支差額	-483,496,782	-1,154,917,162	-671,420,380
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	-1,154,917,162	-1,468,537,226	-313,620,064

(参考)

科目	前年度予算額	2020年度予算額	差異
事業活動収入計	3,044,271,000	3,720,916,000	676,645,000
事業活動支出計	2,807,763,144	2,809,760,000	1,996,856

Ⅶ 施設・設備計画

2020年度の主な施設・設備計画については下記のとおりである。

湘南医療大学薬学部設置にあたり、第1期の教育用備品、図書を整備を行う。また、各学校の教育備品の購入計画等に基づき、教育環境の充実を図る。

学校名	事項	予算額 (千円)
湘南医療大学	保健医療学部：図書/データベース等	9,000
	同：教育用管理用備品	1,060
	大学院保健医療学研究科：図書	500
	同：教育用管理用備品	1,300
	薬学部：図書/データベース等	10,250
	同：教育用管理用備品	1,101,145
茅ヶ崎看護専門学校	看護学科：教育用管理用備品	6,400
	同：図書	1,000
湘南医療大学附属下田看護専門学校	看護学科：教育用管理用備品	6,400
	同：図書	1,000
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	理学療法学科他2学科：教育用管理用備品	4,400
	同：図書	1,000
医療ビジネス観光福祉専門学校	介護福祉学科他2学科：教育用管理用備品	3,500
	同：図書	1,000

Ⅷ 生涯学習事業及び受託事業計画 (※詳細は32P～)

学校名	事項
湘南医療大学	(看護系研修) 認定看護師(認知症看護分野)、看護師実習指導者講習会 認定看護管理者(セカンドレベル)、 認定看護管理者(ファーストレベル) 2020.3申請 特定行為研修 2020.11申請予定
医療ビジネス観光福祉専門学校	(介護系) 介護職員初任者研修、介護福祉士実務者研修
ふれあい医療福祉研修センター	(福祉系) 喀痰吸引等研修、介護職員初任者研修、介護福祉士実務者 研修、介護福祉士国家試験対策講座 (社会福祉系) 社会福祉士実習指導者講習会、社会福祉士国家試験対策講座 (医療事務系) 医療事務講座(初級・中級)

IX 収益事業

不動産賃貸業の検証を行い、収益向上に努める。

X 監査計画

学校法人湘南ふれあい学園監事監査規程第4条の業務監査及び財産の状況監査について、監事が作成する2020年度監査計画に基づき、監事監査を実施するとともに、監事、会計監査人及び内部監査班との連携を強化する。また、監査対象の監査報告に対する意見聴取を行い、今後の監査に活かす。

1 監査の対象

業務監査：湘南医療大学、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校

学校会計監査：公認会計士と連携

2 監査の方法

- ・理事会、評議員会等の主要な会議に出席
- ・各学校（園）の業務監査を、監事が学長、学校長とヒアリング形式で実施する。
- ・公認会計士と監事が面談による会計監査を実施する。

3 監査の実施時期

定期監査（業務監査）	内部監査終了後、2020年12 - 2021年3月の間に実施
	内部監査（2020年 8 - 9月頃予定）は、内部監査班が実施
（会計監査）	2021年4 - 5月公認会計士、内部監査班と連携して実施

4 監査報告書の作成

監査報告書（業務監査）	2021年3月までに報告する
（会計監査）	2021年5月

湘南医療大学 看護実践教育センター

運営責任	看護系				
区分	看護系				
事業名	特定行為 2020.後期予定	認定看護管理者教育課程 (セカンドレベル)	認定看護管理者教育課程 (ファーストレベル) 2020.10開始予定	認定看護師養成課程 (認知症看護分野)	看護師実習指導者講習会
目的	チーム医療の一員として、医療を支え、高度かつ専門的な知識技能と実践的な理解力、思考力、判断力を持ち、手順書に基づき診療補助を行う看護師を育成	看護管理者の資質向上、看護水準の維持向上のための研修	看護管理者を目指す看護職の研修	認知症看護分野において水準の高い看護を実践できる看護師を養成する研修	看護学生の臨地実習指導を行うために受講が必要な講習会
受講資格	看護師実務経験5年以上、勤務先所属長からの推薦を受けた者	以下①～③を全て満たす者 ①看護師実務経験5年以上 ②ファーストレベル修了者 ③看護部長又は副看護部長職にある者	以下①～②を全て満たす者 ①看護師実務経験5年以上 ②管理的業務に関心ある者	以下を全て満たす者 ①看護師実務経験5年以上 ②通算3年以上の認知症看護実績 ③5例以上の担当 現職認知症者の多い医療・福祉機関在籍が望ましい	看護師臨床経験3年以上（見込含む）あり、看護学生の実習指導に関わる予定のある者
時期	2020.後期～ 1年半程度（予定）	2020.12月～ 2021.3月	2020.10～11月	2020.6月～ 2021.3月	2020.7～11月
日数・時間数	区分により異なる 共通科目250時間+区分によって5～34時間 (eラーニング、演習、実習を含む)	180時間	105時間	665時間	240時間 (eラーニング含む)
受講料	未定	250,000円	未定	入学検定料：50,000円 入学金：100,000円 授業料：900,000円 (教科書、保険料等別)	80,000円 (受講料貸付) (テキスト代個人負担)
定員	2～3名予定	20名	50名予定	15名	20名

運営責任	ふれあい医療福祉研修センター			
区分	介 護 系			
事業名	介護職員 初任者研修	喀痰吸引等研修	介護福祉士 実務者研修	介護福祉士 国家試験対策講座
目的	「身体介護」実施のために必要な基礎知識を習得する介護職の入門研修	介護職員が喀痰吸引、経管栄養の実施が可能になる研修	介護福祉士国家試験受験資格を得るための講座	介護福祉士国家試験を受験するにあたっての対策講座
受講資格	特に無し	介護職員	高卒以上	特に無し
時期	①2020.6～9月 ②2020.9～12月 ③2020.11～2021.3月	2020.10月～2021.2月	①2020.2～7月 ②2020.4～9月 ③2020.7～12月	2020.10～11月
日数・ 時間数	17日 (講義15日、実習2日)	10日 (講義8日、演習1日、実習1日)	6ヶ月 (スクーリング7日)	3日
受講料	60,000円 (受講料貸付制度有)	100,000円 (受講料貸付) (テキスト代個人負担)	無資格者：125,000円 初任者研修：105,000円 基礎研修、1級：30,000円 (受講料貸付制度有)	グループ職員：3,500円 グループ外職員：4,000円
定員	20名×3	15名	30名×3	15名

運営責任	ふれあい医療福祉研修センター				
区分	社会福祉系			医療事務系	
事業名	社会福祉専攻科 (通信)	社会福祉士 実習指導者講習会	社会福祉士 国家試験対策講座	医療事務講座 (初級)	医療事務講座 (中級)
目的	社会福祉士国家試験受験 資格を得るための講座	社会福祉士養成施設に通 う学生の実習指導を行う ために受講する必要がある 研修	社会福祉士国家試験を受 験するにあたっての対策 講座	レセプト初心者の能力向 上のための研修	病院経営を念頭に置いた 処理ができる医療事務の スペシャリスト育成を目 指す研修
受講資格	高卒以上 ※相談援助業務経験年数 によってその他学歴 条件有	SW経験3年以上 (見込含む)	特に無し	所属長が推薦した者 (総務課3年未満)	以下①～②を満たす者 ①診療報酬計算事務に携わる 職員で所属長が推薦した者 ②講座開始日に雇用契約締結 後5年以内かつ35歳未満の 者
時期	毎年4月～ 翌年9月末	2021.2月	2020.7～12月	2020.9～2021.1月	2021.1～2021.4月
日数・ 時間数	1年6ヶ月	2日	10日 (平日コース・土曜コース)	6ヶ月(スクーリング5日)	4ヶ月(スクーリング10日)
受講料	実習必修者：350,000円 実習免除者：250,000円 (テキスト代別)	8,000円 (テキスト代別)	グループ職員：16,500円 グループ外職員：24,000円	30,000円	37,500円 (受講料施設持ち)
定員	80名	20名	18名×2	20名	20名